

SY2-01

産業医の視点から考えるパワハラ

中元 健吾

中元産業医・労働衛生コンサルタント事務所

産業医の活動において、ストレスチェック面談・療養者の職場復帰面談・断続的欠勤面談・メンタル不調者の定期面談等で、パワハラ関連の事案に遭遇する。パワハラ被害者からの意見（一方向からの意見）を聴取すると、被害者の言動・行動にも問題ありのケースがあるが、多くの場合、加害者側の行き過ぎた言動・行動を目にする。ただし、産業医としては、実際にパワハラ事案が発生した後の対応が主となり、パワハラ行為者の一次から三次予防への関与は低い。そのような状況下で、『自己中心型』『過干渉型』『無責任型』『ことなかれ型』といった加害者の特徴、『コミュニケーションが苦手』『真面目』『おとなしい』『自己主張が強い』といった被害者の特徴を考慮し、管理職研修でのメンタルヘルス教育への導入や、被害者の特徴の要素を踏まえた社員に面談等で遭遇した場合の、上司に対しての部下への接し方のアドバイス等で、パワハラ被害を予防できる可能性が考えられ、そういった取り組みでパワハラ対策の一定の効果が期待できると考える。

■略歴

- 2003年 産業医科大学卒業
- 2008年 日本ガイシ(株) 専属産業医
- 2016年 中元産業医・労働衛生コンサルタント事務所 代表